

# 国や文化が違ってても ともに幸せに暮らせるまちに ～外国籍市民との共生～

「住みやすい社会」とはどんな社会でしょう。いろいろな答えが考えられますが、「だれもが平等に、個人として尊重されること。少数派だからといって、意見や権利が無視されないこと」は、重要な条件ではないでしょうか。

現在、彦根市には多くの外国人が暮らし、定住を望んでいる人も大勢います。

お互いの異なった文化や価値観を認め合い、日本人も外国人も地域を構成する一員として、ともに暮らしやすい地域を目指すことが、「住みやすい社会」づくりへの第一歩ではないでしょうか。

## 違いを認め合うことから

「個人として尊重されること」とは、例えば、男でも女でも、大人でも子どもでも、国籍が日本でもそうでなくても、お年寄りでも体が不自由でも、すべての住民が、相手の違いを認め合ったうえで、平等に言い合い、話し合えることが大切です。

少数派だからといって、意見や権利が無視されれば、それは決して「住みやすい社会」とはいえないでしょう。



## まずはあいさつから

しかし、今日の状況は、外国人にとって理想の「住みやすい社会」とはいえません。言葉や文化などのさまざまな問題があります。

彦根市に住んでいる外国人が増えた今日、お互いが「違い」を認め合い、「住みやすい社会」や彦根市を築いていくために何が必要なのか考えましょう。

まずは、普段の生活の中で、「こんにちは」とあいさつしてみよう。きつと笑顔とともにあいさつが返ってきます。あいさつは、お互いを知る最初のきっかけになるでしょう。

## 多文化共生って・・・？

皆さんは、「多文化共生」という考え方をどう感じますか。

「多文化共生」という考え方は、例えば、外国からのお客様を歓迎し、日本でよい経験をして本国へ帰ってもらおうという「国際交流」とも、勝手のわからない日本社会で困っている外国人を助けてあげようという「外国人支援」とも、違うものです。

「多文化共生」とは、国籍や民族などの異なる人々が、互

いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として、ともに生きていこうという考え方は、

「多文化共生」が進むことにより、産業・経済の活性化や、日常生活のトラブルや犯罪の防止など、さまざまなメリットが期待されます。

「多文化共生」を実現するためには、地域住民やNPO、ボランティア団体、行政が協力

することが必要です。日本人が、外国人も住民の一人であることを理解していくことが大切なのです。外国人だけではなく、日本人も住みやすい地域を創っていくことにつながるでしょう。



## 彦根市における 多文化共生推進に関する主な施策

- ◆「彦根市生活ガイド」発行  
《英語・ポルトガル語・中国語》(平成3年～)
- ◆外国語版「広報ひこね」発行  
《英語》(平成2年～)・《ポルトガル語》(平成7年～)・《中国語》(平成18年～)
- ◆市役所窓口への通訳配置  
《英語・ポルトガル語》(平成16年～、週2日を始め、現在はほぼ常時)
- ◆多言語による行政制度説明会  
《英語・ポルトガル語》(平成16年～)
- ◆福祉保健センターへの通訳配置  
《英語・ポルトガル語》(平成17年～、週1日を始め、現在は週2日)
- ◆電話相談事業の実施  
《英語・ポルトガル語・中国語》(平成18年～)
- ◆「防災マニュアル」多言語版の発行  
《英語・ポルトガル語・中国語・ハングル》(平成19年～)
- ◆コミュニティFM放送でポルトガル語による市政情報提供(平成19年～)
- ◆「彦根市教育ガイド」多言語版の発行  
《ポルトガル語》(平成20年～)

問い合わせ先 市市民交流課  
☎ 30-6113、FAX22-1398

## なぜ 進んだのでしょ 外国からの「移住」

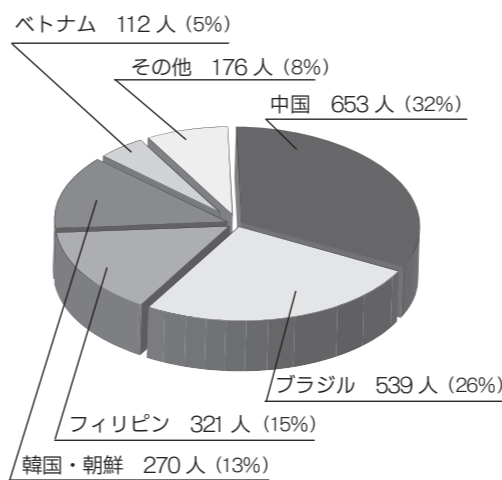
5月末現在で、彦根市に外国人登録をしている人数は、2,071人です。内訳は、中国(653人)、ブラジル(539人)、フィリピン(321人)、韓国・朝鮮(270人)と続いています。

最近の20年ほどで、彦根市に在住する外国人の数は急増しましたが、これは日本全体の現象でした。きっかけは、平成2年の「出入国管理及び難民認定法(入管法)」の改正にあ

ります。この改正により、日系2世、3世の来日が容易になったのです。当時、好景氣を迎えて労働力の不足が課題となっていた日本と、経済状況が不安定だった中南米諸国のニーズが合致し、ブラジルをはじめとする国々から、かつて海を渡った人やその子孫たちのリターンが始まり、外国人労働者が増えていきました。

当初は、短期の就労機会を求めて、単身での来日が多かったのですが、近年では家族を呼び寄せて、日本で定住したいと考える人が増える傾向にあります。

## 彦根市民の約50人に 1人は外国人です



出所：彦根市外国人登録者数(5月末現在)  
端数を整理しているため、合計は100%になりません。

## ボランティアを募集しています 「日本語教室」

外国人に日本語を教えているボランティアグループが、市内に3つあります。いずれのグループでも、学習者とボランティアを募集しています。

日本語教室では、外国語を使わず、日本語で日本語を教えていますので、ボランティアが外国語を話せなくても教えることができます。

日本語を教えるための資格や免許も必要ありません。関心のある人は、いずれかの教室をご覧になるか、各団体へお問い合わせください。

また、皆さんの周りに、日本語を学びたいと思っている人がおられましたら、日本語教室を教えてあげてください。



## 市内のボランティア日本語教室

主催・連絡先	活動日時	活動場所
彦根市国際協会 ☎22-1411(内線590)	毎週水曜日 19:00~20:30	市民会館 (尾末町)
ひこね国際交流会 VOICE ☎46-1294(苗村方)	毎週土曜日 14:00~16:00	中区公民館 (大藪町)
ボランティア日本語教室 スマイル ☎22-9498(本田方)	毎週日曜日 10:00~11:30	西地区公民館 (本町一丁目)

※参加費は、3団体とも1回につき100円